

保護林	シカ被害レベル		調査結果概要	保護・管理の方針案	モニタリング 間隔 【選定理由】 ※マニュアル P10参照
	前回調査	H31年度			
1 きりしまやま 霧島山生物群集保護林	【H26】 2 (1~4)	3	<ul style="list-style-type: none"> 後継個体（ミズナラ、スダジイ等）は確認されたが、10cm以下であった。 <u>ほぼ全域で開花後のスズタケの実生が確認されなかった。</u> ススキ群落にキリシマヒゴダイ等の希少種が確認された。 鳥類の希少種としてヤイロチョウ等が確認された。 	<ul style="list-style-type: none"> 下層植生の回復などを目的に、植生保護柵を拡充する。 植生保護柵の設置箇所においては定期的な保守点検に努める。 下層植生被害を抑制することなどを目的に、捕獲によるシカの個体数管理を継続する。 	5年 【オ】
2 たちばなやま 立花山クスノキ遺伝資源	【H25】 1 (0~1)	0	<ul style="list-style-type: none"> 保護対象樹種のクスノキは健全であった。 後継個体としてアラカシ・ホソバタブが確認された。 	<ul style="list-style-type: none"> シカの侵入の有無を確認することなどを目的に、モニタリング調査を継続する。 	10年
3 いんたきやま 音滝山アカマツ等	【H22】 0	0	<ul style="list-style-type: none"> 保護対象樹種のアカマツは1本のみ、クロマツは確認されなかった。 <u>松枯れは確認されていない。</u> 後継個体としてスダジイが確認された。 	<ul style="list-style-type: none"> シカの侵入の有無を確認することなどを目的に、モニタリング調査を継続する。 	10年
4 みたけ 御岳ツシマヤマネコ	【H25】 2	3	<ul style="list-style-type: none"> 草本層は貧弱で、植被率が高い所はシカの忌避植物で覆われていた。 ツシマヤマネコの生息が確認された。 <u>シカ、イノシシの撮影頻度が高く、生息頭数も多いと推察された。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ツシマヤマネコの適切な生息地環境を維持するため、長崎県や環境省とも連携した保護管理を行う。 	5年 【オ】
5 きたむきやま 北向山スギ等遺伝資源	【H25】 1 (0~1)	3 (3~4)	<ul style="list-style-type: none"> 保護対象樹種の枯損は確認されなかった。 <u>1プロットで表土流亡が起こっていた。</u> 保護林内の10ヶ所程で熊本地震による山腹崩壊・地すべりが確認された。 	<ul style="list-style-type: none"> 下層植生の回復などを目的に、捕獲によるシカの個体数管理等の対策や植生保護柵の設置を検討する。 急傾斜で表土流亡が確認される箇所においては、今後の対策について検討する必要がある。 	5年 【オ】
6 いちふさ 市房モミ等	【H27】 4 (3~4)	4 (3~4)	<ul style="list-style-type: none"> 群落構成種である<u>マンサクの枯損が進行している。</u> 草本層は貧弱で、植被率が高い所はシカの忌避植物で覆われていた。 山頂から北へ延びる尾根付近で、山腹崩壊が報告されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 下層植生被害を抑制することなどを目的に、捕獲によるシカの個体数管理を継続する。 下層植生の回復などを目的に、植生保護柵の設置を検討する。 	5年 【オ】
7 いちふさ 市房ツガ等遺伝資源	【H22】 1	3	<ul style="list-style-type: none"> 保護対象樹種の枯損は確認されなかった。 後継個体としてツガ・モミ等が確認された。 <u>ヒメコマツは9本残存し、実生も確認された。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> 下層植生被害を抑制することなどを目的に、捕獲によるシカの個体数管理を継続する。 下層植生の回復などを目的に、植生保護柵の拡充を検討する。 植生保護柵の設置箇所においては定期的な保守点検に努める。 	5年 【オ】
8 いちふさ 市房ゴイシツバメシジミ	【H22】 1 (0~1)	3	<ul style="list-style-type: none"> <u>ゴイシツバメシジミの成虫は多数確認された。</u> 後継個体としてウラジロガシ・ホソバタブ等が確認された。 植生保護柵（H29設置）内の植生の回復は見られなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ゴイシツバメシジミにとっての適切な生息地環境を維持するため、環境省・市・町村と連携して対策を実施する。 	5年 【オ】
9 ひょうどやま 兵戸山モミ等遺伝資源	【H22】 0	0	<ul style="list-style-type: none"> 保護対象樹種の枯損は確認されなかった。 後継個体としてコハウチワカエデ、アオハダ等が確認された。 スズタケの開花枯死に伴う低木層の大幅な減少により、<u>種構成や植被率に大きな変化が生じている。</u>ただし、スズタケの実生個体は確認された。 	<ul style="list-style-type: none"> 下層植生被害を未然に防ぐことなどを目的に、シカの生息状況調査を実施する。 	5年 【キ】
10 おおいしかしやま 大石榎山アカガシ等	【H22】 3	3	<ul style="list-style-type: none"> 後継個体として、イヌシデ・ハリギリ等が確認された。 草本層は全プロットともに植被率が極めて低く、貧弱であった。 <u>保護対象樹種のミヤマシキミと希少種のスギラン等は確認されなかった。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> 下層植生被害を抑制することなどを目的に、捕獲によるシカの個体数管理を継続する。 下層植生の回復などを目的に、植生保護柵の設置を検討する。 	5年 【オ】

保護林	シカ被害レベル		調査結果概要	保護・管理の方針案	モニタリング 間隔 【選定理由】 ※マニュアル P10参照
	前回調査	H31年度			
11 かしば 檜葉アカマツ等遺伝資源	【H26】 4 (3~4)	3	・後継個体としてアカガシ・コハウチワカエデ等が確認された。 ・草本層は貧弱で、植被率が高い所はシカの忌避植物で覆われていた。	・下層植生の回復などを目的に、植生保護柵の設置を検討する。 ・林冠構成種の後継個体育成などを図るために、単木的防護を検討する。	5年 【オ】
12 おすず 尾鈴アカマツ等遺伝資源	【H26】 4	4 (3~4)	・保護対象樹種の枯損は確認されなかった。 ・後継個体としてスダジイ・ウラジロガシ等が確認された。 ・草本層は全プロットともに植被率が極めて低く、貧弱であった。 ・ <u>1プロットで表土流亡が起っていた。</u>	・下層植生の回復などを目的に、捕獲によるシカの個体数管理等の対策及び植生保護柵の設置を検討する。	5年 【オ】
13 おすず 尾鈴コウヤマキ	【H26】 4	4 (3~4)	・ <u>高木層において、シカの被害と思われる枯損木が10本以上確認された。</u> ・保護対象樹種の枯損は確認されなかった。 ・後継個体としてコウヤマキ等が確認された。 ・プロット外の尾根筋のコウヤマキ等が強風の影響で倒伏や枯損していた。	・下層植生被害を抑制することなどを目的に、捕獲によるシカの個体数管理等の対策を検討する。 ・林冠構成種の後継個体育成などを図るために、単木的防護を検討する。	5年 【オ】
14 はちくぼ 八久保イチイガシ遺伝資源	【H23】 0	2 (1~2)	・保護対象樹種の枯損は確認されなかった。 ・後継個体としてイスノキ等が確認された。 ・カシノナガキクイムシによる枯損が3本確認された。 ・希少種のアラゲサンショウソウが確認された。	・シカ被害レベルが0から2へ移行したプロットを優先的に、植生保護柵の設置を検討する。	5年 【オ】
15 になじり 蜷尻ツブラジイ等遺伝資源	【H26】 0	2 (0~3)	・保護対象樹種の枯損は確認されなかった。 ・後継個体としてツブラジイ・スダジイ等が確認された。 ・ <u>3プロットでアオキの生育が確認された。</u>	・アオキの生育が確認されたプロットを優先的に、植生保護柵の設置を検討する。	5年 【オ】
16 かわぞえ 川添タブノキ等遺伝資源	【H26】 3 (2~4)	3	・保護対象樹種の枯損は確認されなかった。 ・後継個体としてタブノキ・イスノキ等が確認された。 ・草本層は全プロットともに植被率が極めて低く、貧弱であった。	・下層植生の回復などを目的に、植生保護柵の設置を検討する。	5年 【オ】
17 おもなわ 面縄リュウキュウマツ遺伝資源	—	—	・ <u>松枯れにより、リュウキュウマツは立木および材積が大幅に減少した。</u> ・リュウキュウマツの後継個体は確認されなかった。 ・草本層は豊かに繁茂し、種多様性が見られた。	・現地の現状を踏まえ、遺伝資源並びに保護林保全の観点から対応を検討する。	5年 【オ】
18 たねがしま 種子島ヤクタネゴヨウ等	【H26】 1	3	・ <u>ヤクタネゴヨウの枯損等は確認されなかったが、立木数自体少なかった。</u> ・ヤクタネゴヨウの後継個体は確認されなかった。 ・希少種のヤッコソウ・シマシユスラン等が確認された。		5年 【オ】
19 わせだがわ 早稲田川ヤクタネゴヨウ	【H26】 2	3	・ <u>ヤクタネゴヨウの枯損等は確認されなかった。</u> ・ヤクタネゴヨウの後継個体は確認されなかった。 ・カシノナガキクイムシによるマテバシイの被害木が確認された。	・ヤクタネゴヨウの更新を目的に、母樹周辺に植生保護柵を設置を検討する。 ・マツノザイセンチュウ被害防止対策として、薬剤樹幹注入を継続する。	5年 【オ】
20 せぎれがわ 瀬切川ヤクタネゴヨウ	【H23】 —	3	・ <u>プロット外でマツノザイセンチュウによるヤクタネゴヨウの枯損が確認された。</u> ・後継個体としてヤクタネゴヨウが確認された。 ・草本層は全プロットともに植被率が極めて低く、貧弱である。		5年 【オ】